

香川県農業・農村審議会議事概要

- 1 日 時：平成 29 年 3 月 28 日（火） 13 時 30 分～15 時
- 2 場 所：ルポール讃岐 大ホール
- 3 出席者：赤松委員、大西委員、大山委員、香川委員、片岡委員、木村委員、
強谷委員、橋田委員、松田委員、松本委員、三原委員、宮武委員
- 4 議 題：香川県農業・農村基本計画の進捗状況等について

【議事要旨】

事務局から、香川県農業・農村基本計画における平成 28 年度の取組状況と今後の対応について説明を行った後、審議を行った。

主な意見は次のとおり。

○委員

県では、「食の安全と消費者の信頼・安心確保」の施策の中でGAP（農業生産工程管理）を推進しているが、東京オリンピック・パラリンピックの食材調達の基準に、国際規格とされているGLOBAL GAPや、日本のJGAP等の認証を要件にする方針が打ち出されたことから、広い観点のもとにGAPを推進してもらいたい。

→（事務局）

- ・ 県では、輸出を促進する観点から、29 年度にJGAP等の取得を支援する新規事業を創設したところであるが、御指摘の点も踏まえて取り組んでまいりたい。

○委員

「おいでまい」と「さぬきの夢」の生産が伸びていないようだが、どのような理由か。「さぬきの夢」を積極的に使用しているうどん店もあると思うが。

→（事務局）

- ・ 「おいでまい」については、生産拡大を急ぐと品質にバラツキが生じるおそれがあることから、県内の良食味地域を基本として、段階的に生産拡大を進めているところである。27 年産が食味ランキングで「A」評価となったことから、28 年産の生産は伸び悩んだが、28 年産が再び「特A」を取得して農業者の生産意欲も高まっていることから、農業団体とも連携して、ブランドイメージを守りながら生産拡大を進めてまいりたい。
- ・ 本県の小麦生産について、一時は作付面積が 500ha を下回るまで減少していたが、「さぬきの夢」を開発して以降、1,500ha まで拡大してきたところ。近年は御指摘のとおり伸び悩んでおり、播種時期の天候不順が主な要因として考えられる。また、単

収も低いことから、その要因を分析し、作付拡大と単収の向上の両面から生産拡大を図ってまいりたい。

○委員

水田のパイプライン化に取り組んでいるが、節水効果はどの程度か。

→ (事務局)

- ・ 国の説明では、1割程度の節水効果があるとされている。また、農業者にとって省力化の効果も大きいと思われる。

○委員

東京のアンテナショップの売上を見れば、香川県のブランド農産物がどのような位置づけか分かるのではないか。

→ (事務局)

- ・ 新橋の旬彩館では、生鮮品より「讃岐うどん」など加工食品が多く扱われているところであるが、ブランド農産物がどのような状況か、リサーチしてまいりたい。

○委員

基盤整備については、地域で引っ張っていく人材がいないと進まないのが現状である。また、基盤整備と深井戸の整備を一体的に取り組むなど、農地の出し手と受け手の双方にメリットのある基盤整備を進めてもらいたい。

→ (事務局)

- ・ いろいろな局面でリーダーが必要であるが、そうした人材を数多く確保することは困難なことから、農地中間管理事業を活用した農地集積を地域で進める際に、集落営農と基盤整備もセットで推進する中で、共通のリーダーを確保してまいりたい。
- ・ 基盤整備については、農地の集積率に応じて地元負担が軽減される事業や、国の事業の対象にならない小さな規模を対象とした県の事業もある。また、ほ場整備の中で用水を確保するための深井戸整備も取り組めることになっているので、活用を検討してもらいたい。県では、今後も担い手のニーズに即した基盤整備を進めてまいりたい。

○委員

最近では県外からの就農希望者が増加しているが、共同選果場や作業支援の仕組みが充実できれば、もっと気軽に農業に入ることができると思う。

→ (事務局)

- ・ 国の「産地パワーアップ事業」や「強い農業づくり交付金」などで共同利用施設の整備を支援しており、県の事業で作業支援の体制整備も支援しているところである。今後もより就農しやすい環境整備に努めてまいりたい。

○委員

薬用作物の「ミシマサイコ」を推進しているが、どのような状況か。

→ (事務局)

- ・ 「ミシマサイコ」については、従来は国内漢方メーカーが中国から輸入していたが、中国での需要の高まりから入手が困難になり、国内での生産拡大が求められるようになってきている。そうした背景のもと、県では 28 年度に薬用作物の導入を促進する事業を創設したところであり、中山間地域に適する作物として実証試験等を行っているところである。

○委員

「ミシマサイコ」以外の作物も検討しているのか。

→ (事務局)

- ・ 「ドクダミ」や「アシタバ」なども中山間地域に適する作物として検討しているところである。

○委員

新規就農者の相談会などを開催してもらっているが、我々も学生を実習生として受け入れたいと考えている。仲間と一緒に一覧表を作りたいと思っているので、支援してもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 学生を積極的に受け入れていただけることは有り難い。学生の頃から農業に触れることは重要であり、県としても協力できるところは連携してまいりたい。

○委員

国際線が増えて海外からの旅行者が増えているが、畜産農家としては家畜伝染病が心配である。牧場にやって来て写真を撮っている外国人も見かけるので、海外からの旅行者に対してもしっかり対応してもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 高松空港での防疫対策については国が対応しているところ。畜産農家に対して

は外部からの訪問者の消毒や記帳などの徹底を指導している。また、近年増加している外国人実習生を対象とした防疫研修会を 28 年度に初めてに開催したところであり、今後もしっかりと防疫対策に取り組んでまいりたい。

○会長

29 年度から実施する「かがわ農業 MBA 塾」の準備はどのような状況か。

→ (事務局)

- ・ 他産業従事者の平均所得を大きく上回る 1,000 万円から 2,000 万円の農業所得を確保できる力強い担い手の育成に向けて、担い手の方々や農業高校の校長先生などとカリキュラムについて検討しているところである。

○委員

基本計画の進捗率について、初年度としてはまずまずの成果である。ただ、指標によって成果が毎年、比例的に現れるものと、地道な取り組みを経て成果が加速度的に現れるものがあるので、内容をよく分析しながら取り組んでもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 各指標の特性を踏まえながら、取組状況をよく吟味してまいりたい。

○委員

企業の農業参入が増加しているが、新聞などで企業は簡単に撤退するという記事も目にすることから、参入した企業がいかに定着できるかが重要である。

→ (事務局)

- ・ 本県においては地元の建設業者の参入が多い傾向にある。県では、参入企業が地域で定着できるように、農業技術面を中心にサポートしており、今のところ経営が順調な企業が多い。今後も地域に根ざした企業を中心に参入・定着を支援してまいりたい。

○会長

事務局には、本日の議論を参考に、香川県農業・農村基本計画の目標の達成に向けて、本県農業・農村のより一層の振興に努めてもらいたい。

「以上」